

2

特集 痩身治療の「今」を知る！

痩身治療 総論

宮田成章

みやた形成外科・皮ふクリニック 院長

部分痩身治療とは体重を減少させるものではなく、あくまで局所の皮下脂肪を減少させるもの、つまり体型を改善するものである。侵襲的な手技である脂肪吸引の効果は満足度の高いものであるが、リスクやダウンタイムがあり、近年非侵襲的な手技として各種の機器や薬剤注射によるものが登場してきた。機器としては冷却、レーザー、超音波、高周波、電磁場を利用したものなどが挙げられる。それぞれの作用機序や効果を理解し、患者満足度を上げることが望ましい。

はじめに

近年、美容医療領域においては外科的手法に取って代わって非侵襲的な機器や注射剤による治療がさかんになってきた。部分痩身においてもそれは同じであり、脂肪吸引に代わるさまざまな手法が登場してきている。

しかしながら、脂肪吸引は世界的にさかんに行われている治療手技であり、欧米や南米などでは美容外科治療の上位を占める治療法である¹⁾。明確に結果を出せる脂肪吸引は、侵襲性さえ納得すれば満足度が高い手法といえる。ただし、リスクやダウンタイムを考えると躊躇することが多

いのは他の美容外科手術と同じである。効果は劣っても仕事を休むことなくローリスクで気軽に治療できる治療法が登場すると、部分痩身治療は飛躍的に成長する分野となった。

もちろんその理由には、顔面にかかわる非外科的手法がもはや革新的なものの登場がなくやや停滞気味であること、美容医療全般の世界的流行などから、企業論理として新しいものを生み出しビジネスチャンスを得たいという商業的要素もあると考えられる。

いずれにせよ現在の美容医療分野においては多種多様の非外科的部分痩身治療が行われている。

概念

最も重要なことは、部分痩身とはあくまで局所の皮下脂肪を減少させるものであり、体重を減少させるものではないということである。せいぜい数十グラム程度の脂肪が量としては減少するに過ぎない。たとえば1kgの脂肪組織を取り除くとなると相当量のボリュームを除去する必要がある。ステーキなどの肉塊で考えると理解できるように、それよりも比重の軽い脂肪となるとさらに容積が大きく、現実には脂肪吸引手術でさえも限界がある。

また何cm減少したかという局所のサイズダウンが効果として強調されることもあるが、体型は体調による変動や日内変動が大きい。下半身では浮腫の影響を受け、腹部では食事の影響を受けやすい。そのため、患者側が効果をイメージしにくい。

部分痩身は、英語ではbody sculpting, body shapingなどと称される。形状を整えていくものである。しかしながら、日本語では「痩せる」という漢字のために体重減少を連想させる。部分痩身という用語が浸透してしまっていることが問題かもしれない。患者に医師側がどのように説明して、納得してもらうかが重要である。

また日本人は欧米と比較して肥満の割合は低い(図1)²⁾にもかかわらず、さらなるダイエットを求める傾向にある。多くの女性はたとえ痩せていてももっとスリムになりたいと考えている。医学的に健康である体重と、女性の理想とする体重の相違が大きいといえる。しかし体重減少だけでは解決できない問題がある。スタイルをきれいにするということである。ダイエットでは落としたい部位の皮下脂肪まで減少してしまうので、部分痩身治療を行うことによって希望する部位のみの形状改善を図るのが望ましい。

そして、加齢によって体型が変化することがわかってきている³⁾。体重に大きな変動がなくても加齢とともに体の

各部位の形状は変化していく。好ましくない部位に皮下脂肪が増えてしまい、若い頃と同じ洋服が着られなくなり、体型の変化を自覚する。このような症状に対し、部分痩身治療は効果を発揮すると考えられる。

レーザー脱毛やシミ治療のように明確に結果を理解してもらえる治療と異なり、脂肪が完全になくなるということではなく、またさまざまな要因によって結果が左右される部分痩身は、いかに患者と医師の意思疎通がうまくなされるかが鍵である。

さらには、部分痩身とは何かという概念が浸透していないことが現状では問題であり、また体重減少という需要と比較して部分痩身の需要が少ないことも今後の課題となる。

一方で、その効果が理解されれば、全身のあらゆる部位が対象となること、および永久的ではない部分痩身の性質上、患者が反復して治療を行うという、医療機関にとっては安定した診療を行える分野の治療ともなりうる。

部分痩身の種類

大きく分けて侵襲的なものと非侵襲的なものに分類される(図2)。侵襲的なものとしては脂肪吸引と、腹壁形成などに代表される皮膚および皮下脂肪を一塊とした切除術がある。切除術については欧米での報告がほとんどで、わが国では一般的ではないため割愛する。脂肪吸引は数ミリ程度のわずかな皮膚切開を行い吸引管を挿入、鈍的・広範囲に皮下脂肪を吸引していく手法である。開発された初期には出血や壊死など非常に危険度の高い手段であったが、器具の改良やtumessent法の開発などによって現在では安全かつ確実な治療法となってきた。しかしながら組織を破碎吸引する手法である以上、合併症は皆無ではなく、脂肪塞栓などをはじめとする重篤な副作用が報告されてい